



今年の桜の咲き方は何か変だった。全国に先駆けて東京に開花宣言が出されたが、神奈川横浜の拙宅の、ドアを開けると目に飛び込んでくる数本の桜一人も来ずひっそりと咲き、とてもいい感じなのだが、蕾が一向に膨らまず、やっと咲くことは咲いたけれど、樹によってまちまち。おまけに晴れた日が、と言うか時間帯も少なく、撮影する気力が湧かないほどであった。

ま、仕方ないさ、来年また咲くからと自分を納得させたままTVを観ていたところ、4月27日夜、NHKの「所さん！大変ですよ」で衝撃的な事件を取り上げていた。なんでもそれは桜を伐採するというテーマであったが、線路の傍らの桜の老木の枝が折れて落下し電車が止まったりするので、とか、遺跡の上に根を張ってしまい貴重な遺跡を破壊してしまうので等の理由から、伐採という話。反対意見もあり、それなりに人の世の難しさを垣間見せていたが、びっくりしたのは、中国原産のカミキリムシの一種が、桜の幹の中で幼虫期を過ごし、桜の樹を枯らしてしまうという件。専門家の話は、そうなったら切倒す以外は無い、ほっておくとどんどん侵食され、日本から桜が消えてしまう、ゆめゆめ成虫等を飼ったりしないようにとのことであった。ひえーっ！桜が無くなる！どうしよう！というところで浮かんだのが標題の漢詩の一節。多少の気候変動があっても、なあに、来年もおんなじように咲くだろうと思っていたのに……。知らないほうがよかったという一例である。

となると、対になっている歳々年々のほうである。今、会員の皆様方は手塩にかけた卒業生を送り出し、数多くの新人たちを迎え入れ、指導に励んでおられることと拝察申し上げる。入学して初めてラケットを握る子もいれば、地域のクラブに入って相当にもまれて来た子たちも居る。そして、多くはその中間層：ともかくバドミントンが好き、嫌いではない、リオのタカマツの活躍にあこがれて何となくといった子どもたち。そういった子どもたち（最近は大学生も含む）を皆様は教えておられるのである。

既にご経験のように、その子たちは同じではない。それぞれに個性があり、一見個性が無いように見えても、しっかりした自我を持っているケースが多い。そして勿論昨年の新入生とは違う。まさに歳々年々人同ジカラズなのである。

実は花だってそう。鉢植えでもプランターでもよいから、花を育ててみると、一株一株微妙な違いがあることに気付かせられる。成長のスピード、花の色、葉っぱや花びらのかたち。それぞれに異なるのである。今日も今日とて某学校の某バレー部で、レシーブに失敗した子の顔面にボールを投げつけるという映像がTVで流れていた。機器の進化で、今はどこで人が見て、どこで撮影され投稿があるかもしれない時代である。（こちらは、知っておいたほうがよいという一例か）。だからと言ってびびったり、おもねる必要は無い。大らかに正々堂々と指導をして行って頂きたいと思う。

先日、都内の或るスポーツセンターを覗いたら、大学1、2年生くらいの子数人が、実に楽しそうにゲームをやっていた。或る程度の技術があり、身体もよく動きといった連中が、キャッキョッと歓声をあげながら、ゲームを楽しんでいた。あんなグループを見たのは初めてである。小生の理想とするところはそれ。一握りのトップ選手の育成は別として、バドミントンが大好き、ずっとずうっとやって行きたいという子達を多く育てて頂きたい。

(付記：西本、桃田君に続いて古賀君も間もなく復帰するであろう。これからの日本バドミントン界が楽しみである)。

目 次

巻頭言

第55回大会 研修会報告

平成28年度全日本総合選手権大会レポート

特集 モルディブ女子ジュニア選手育成支援事業

第6回全日本教育系学生選手権大会

表紙の人